

愛と婚姻

泉鏡花作

全一章

媒妁人先づいふめでたしと、舅姑またいふめでたしと、親類等皆いふめでなしと、知己朋友皆いふめでたしと、渠等は欣欣然として新夫婦の婚姻を祝す、婚禮果してめでたきか。

小説に於ける男女の主客が婚禮は最めでたし。何となれば渠等の行路難は皆合ニの事ある以前既に経過し去りて、白來無事悠々の間に平和なる歳月を送ればなり。

然れども斯の如きはたゞ一部、一篇、一局部の話柄に留まるのみ。其實一般の婦人が忌むべく、恐るべき人生觀は、婚姻以前にあらずして、其以後にあるものなりとす。

渠等が慈愛なる父母の掌中を出で、其身を致す、

舅姑はいかむ。夫はいかむ。小姑はいかむ。すべての
の關係者はいかむ。はた社會はいかむ。在來の經驗
に因りて見る處のそれらの者は果していかむ。豈寒
心すべきものならずや。

婦人の婚姻に因りて得る處のものは概ね斯の如し。
而して男子もまた、先人曰く、「妻なければ樂少く、
妻ある身には悲多し」とそれ然るのみ。

然れども社會は普通の場合に於て、個人的に處し
得べきものにあらず。親のために、子のために、夫
のために、知己親類のために、奴僕のために。町の
ために、村のために、家のために、窮せざるべから
ず、泣かざるべからず、苦まざるべからず、甚しき
に至りては死せざるべからず、常に我といふ一個簡
單なる肉體を超然たらしむることを得で、多々他人
に因りて左右せられ、是非せられ、猶且つ支配さるゝ
ものたり。但愛のためには必ずしも我といふ一種勝
手次第なる觀念の起るものにあらず、完全なる愛は
「無我」のまたの名なり。故に愛のためにせむか、
他に興へらるゝものは、難といへども、苦といへど

も、喜んで・甘じて、これを享く。元來不幸といひ、窮苦といひ、艱難辛苦といふもの、皆我を我としたる我を以て、他に――社會に――對するより起る處の怨言のみ。愛によりて我なかりせば、いづくんぞそれ苦樂あらむや。

情死、駢落、勘當等、これ皆愛の分瓣たり。すなはち其人のために喜び、其人のために祝して、これをめでたしといはむも可なり。但社會のためには歎ずべきのみ。獨り婚禮に至りては、儀式上、文字上、別に何等の愛ありて存するにあらず。唯男女相會して、肅然と杯を巡らすに過ぎず。人の未だ結婚せざるや、愛は自由なり。諺に曰く「戀に上下の隔なし」と。然り、何人が何人を戀するも、誰かこれを非なりとせむ。一旦結婚したる婦人はこれ婦人といふものにあらずして、寧ろ妻といへる一種女性の人間なり。吾人は渠を愛すること能はず、否愛すること能はざるにあらず、社會がこれを許さざるなり。愛することを得ざらしむるなり。要するに社會の婚姻は、愛を束縛して、壓制して、自由を剥奪せむがために造られたる、殘絶、酷絶の刑法なりとす。

古來いふ佳人は薄命なり、と蓋し社會が渠をして
薄命ならしむるのみ。婚姻てふものだにかりせば、
何等の佳人か薄命なるべき。愛に於ける一切の葛
藤、粉紘、失望、自殺、疾病等あらゆる恐るべき熟
字は皆婚姻のあるに因りて生ずる處の結果ならずや。

妻なく、夫なく、一般の男女は皆たゞ男女なりと
假定せよ。愛に封する道德の罪人は那邊にか出來ら
む、女子は情のために其夫を毒殺するの要なきなり。
男子すは愛のために密通することを要せざるなり。
否、たゞに要せざるのみならず、爾き不快なる文字
はこれを愛の字典の何ページに求むるも、決して見
出すこと能はざるに至るや必せり。然れども斯の如
きは社會に秩序ありて敢て許さず。

あゝ、結婚を以て愛の大成したるものとなすは、
大なるあやまりなるかな。世人結婚を欲することな
くして、愛を欲せむか、吾人は嫦娥を愛することを
得、嫦娥は吾人を愛することを得、何人が何人を愛
するも妨げなし、はた亂もなし。匈奴にして照君を
愛するも、照君豈馬に乗るの怨あらむや。其愀然と

して胡國に嫁ぎたるもの、匈奴が婚姻を強ひたるに
外ならず。然も婚姻に因りて愛を得むと欲するは、
何ぞ、水中の月を捉へむとする猿猴の愚と大に異な
るあらむや。或は婚姻を以て相互の愛を有形にたし
かむる證據とせむか。其愛の薄弱なる論ずるに足ら
ず。憚りなく直言すれば、婚姻は蓋し愛を拷問して
我に從はしめむとする、卑怯なる手段のみ。それ然
り、然れどもこはたゞ婚姻の裏面をいふもの、其表
面に至りては吾人が國家を造るべき分子なり。親に
對する孝道なり。家に對する責任なり。朋友に對す
る禮儀なり。親屬にたいする交誼なり。總括すれば
社會に對する義務なり。然も我に於て寸毫の益する
處あらず。婚姻何ぞ其人のために喜ぶべけむや。祝
すべけむや。めでたからむや。しかも媒はいふめで
たしと、舅姑はいふめでたしと、親類はいふめでた
しと、朋友はいふめでたしと、そも何の意ぞ。他な
し、社會のために祝するなり。

古來我國の婚禮は、愛のためにせずして社會のた
めにす。奉儒の國は子孫なからざるべからずと命ず
るに因れり。もしそれ愛によりて起る處の婚姻なら

むか、舅姑きうこなにかある、小姑こじうと何かある、凡すべての關係くわんけい者しや何かある、そも／＼社會しやくわいは何かある。然しかるに、社會しやくわいに對たいする義務ぎむの爲ために止やむを得えずして結婚けつこんをなす、舅姑きうこは依然いぜんとして舅姑きうこたり、關係くわんけい者しや、皆みな依然いぜんとして渠かれを窮きうせしむ。人ひとの親おやの、其兒そのこに教をしふるに愛あいを以もつてせずして漫みだりに恭謙きやうけん、貞淑ていしゆく、溫柔をんじゆうをのみこれことゝするは何なんぞや。既すでにいふ、愛あいは「無我むが」なりと。我われなきもの誰たれか人倫じんりんを亂みだらむや。しかも婚姻こんいんを以もつて人生じんせいの大禮たいれいなりとし、出いでゝは歸かへることなかれと教をしふ。婦人ふじん甘んじてこの命めいを請うけ行ゆいて嫁かす、其衷情そのちゆうじやう憐あはれに堪たへなり。謝しやせよ、新夫婦しんふうふに感謝かんしゃせよ、渠等かれらは社會しやくわいに對たいする義務ぎむのために懊惱おうなう不快ふくわいなるあまたの係けい累るゑに束縛そくばくされむとす。何なんとなれば社會しやくわいは人ひとに因よりて造つくらるゝものにして、人ひとは結婚けつこんによりて造つくらるゝ者ものなればなり。こゝに於おいてか媒妁なかうど人ひとはいふめでたしと、舅姑しうとこはいふめでたしと、親類朋友しんるゑほういうみな皆みなまたいふめでたしと。然しかり、新夫婦しんふうふは止やむを得えずして社會しやくわいのために婚姻こんいんす。社會しやくわい一般いぱんの人ひとに取りてはめでたかるべし、嬉うれしかるべし、愉快ゆくわいなるべし、これをめでたしと祝しゆくせむよりは、寧むしろ慇懃あんぎんに新夫婦しんふうふに向むかひて謝しやして可かなり。

には何のめでたきことあらむや、渠等が雷同して
めでたしといふは、社會のためにめでたきのみ。
再言す、吾人々類が因りてもて生命を存すべき愛
なるものは、更に婚姻によりて得らるべきものにあ
らざること。人は死を以て絶痛のことゝなす、然
れども國家のためには喜て死するにあらずや。婚姻
亦然り。社會のために身を犠牲に供して何人も、め
でたく、式三獻せざるべからざるなり。

【完】